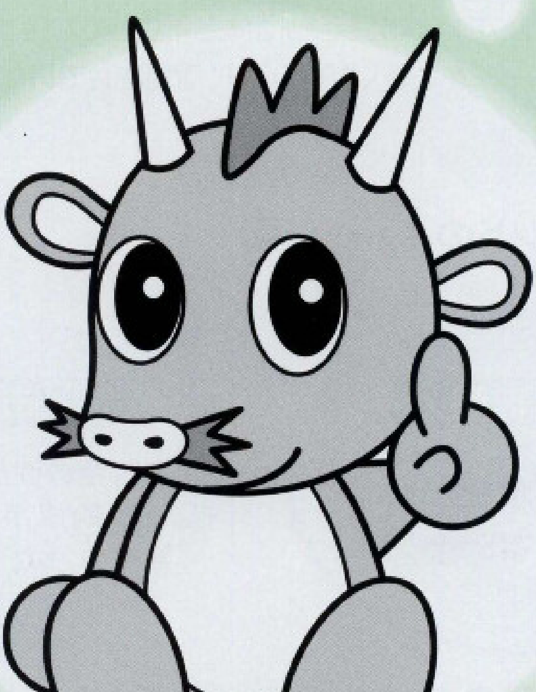
さいたまマッチングファンド NEWS ニュース

平成24年度事業報告

vol.4



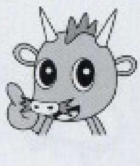
目次

- マッチングファンドとは……2
- 一般助成事業……3～6
- 協働のテーブルについて……7
- 団体希望助成事業・寄附者のご紹介……8～10
- お知らせ……11
- マッチングファンドへの寄附について……12

さいたま市市民活動支援室

マッチングファンドとは？

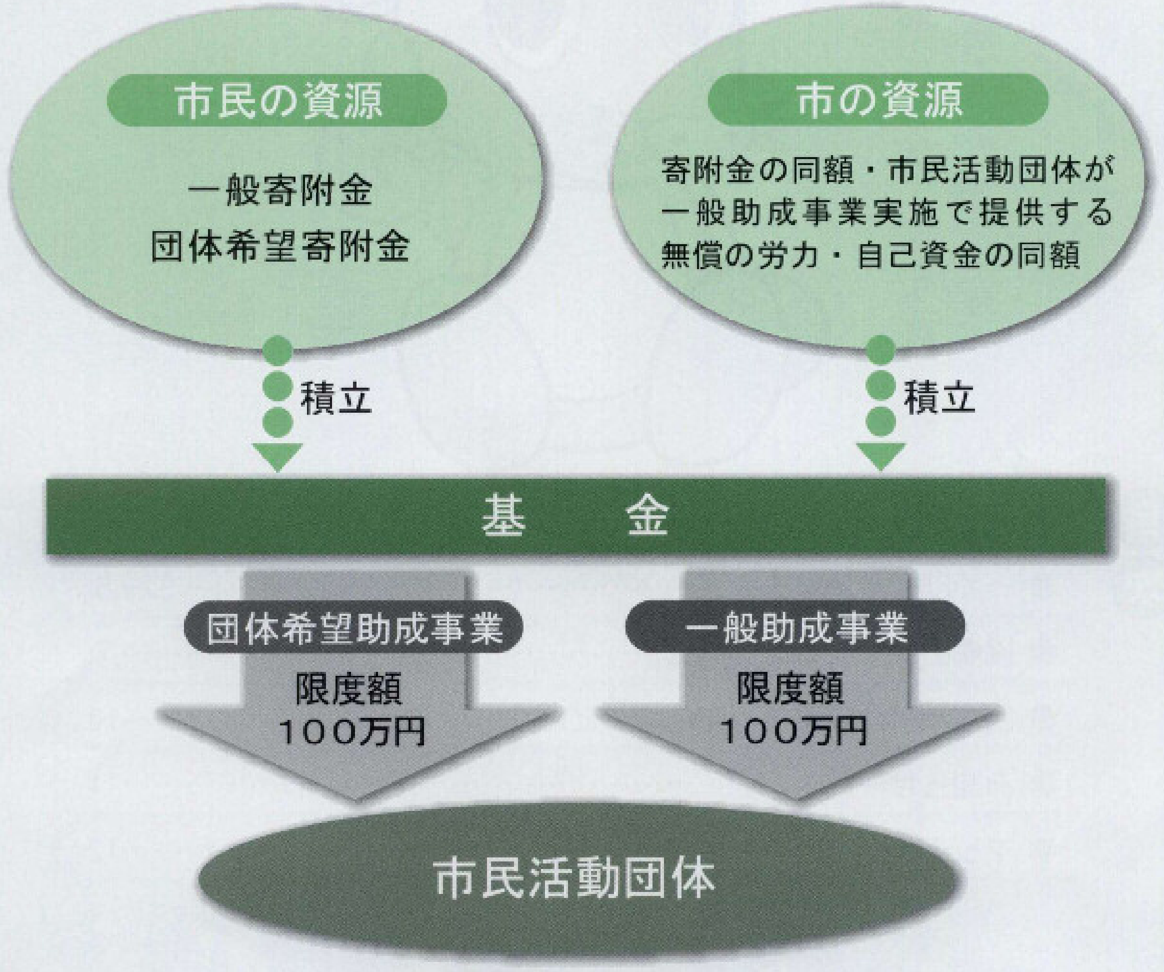
行政だけではなく、地域社会を構成する多様な市民が公共の担い手としてまちづくりに参加する「新しい公共」という考え方に立ち、市民活動及び協働を推進することにより活力のある地域社会の実現を進めるため、市民の皆さんが市民活動に参加・応援しやすくなる環境づくりの一環として「さいたま市市民活動及び協働の推進基金」を創設しました。



寄附には、一般助成寄附と団体希望寄附があり、助成事業も一般助成事業と団体希望助成事業の２種類あります。一般助成寄附は、さいたま市の市民活動全般を応援する寄附金です。この寄附金は、市からの積立金とあわせて、一般助成事業（３ページをご覧ください）に活用させていただきます。実施の際には、市民活動団体が提供する無償の労力を1人1時間５００円で換算した額及び自己資金と同額の市の財源を基金に積み立て（市民の資源とのマッチング）、助成事業の原資とします。

団体希望寄附は、基金に登録している市民活動団体を希望して応援する寄附金です。この寄附金は、団体希望助成事業（８～１０ページをご覧ください）に活用させていただきます。

マッチングファンドのイメージ図



一般助成事業

市民活動団体から、市と協働して地域課題の解決のために、事業目的が一つの区にとどまらない公益的な事業で活力のあるまちづくりに貢献する事業を募集し、さいたま市市民活動推進委員会での審査を経て、市民が協働事業のために提供する自己資金・無償の労力・寄附に見合った金額を助成するものです。

事業の流れ

募　集	審査（一次・二次）	事業実施	助成金交付	報告会
1月	3月	4月以降の交付決定後	翌年３月	4月

事業実績

平成２４年度は6事業を実施しました。詳しくは、４～６ページをご覧ください。

平成２５年度は4事業を実施する予定です。

● URAWA FESTIVAL FRINGE

【特定非営利活動法人 URAWA FESTIVAL FRINGE＆文化振興課】

世界最大の芸術祭「エディンバラ・フェスティバル・フリンジ」をモデルとし、演劇等のパフォーミング・アートと音楽が街に溢れ、世界中の人々で賑わうような地域の祭典を多くの市民と共に作り上げることを目的とする事業です。

● さいたまママサミット

【スマイルママコム＆子育て企画課】

各区からママ数名が参加するサミットを開催し、各区の子育てに関する特色や区を超えた子育てに関する情報の交換、問題の共有をすることで、子育ての悩みや問題の解消へ導くことを目的とする事業です。

● 地域社会に対するＩＴ知識の普及推進事業

【ＩＴリーダの集い＆ＩＴ政策課】

地域で活動する団体の中心的担い手である高齢者層をメインにＩＴ関連講座を実施し、また団体のホームページ作成支援により情報発信力を高めることで、地域社会の情報格差の解消と活性化を目的とする事業です。

● さいたま・市民＆市・水とみどりの共学事業

【特定非営利活動法人水のフォルム＆みどり推進課見沼田圃政策推進室】

水とみどりの保全に向けて、市民と行政が共に知識や教養を深め、話し合い、交流する場を提供し、また講義の内容をわかりやすく情報発信することで、広く市民に理解してもうことを目的とする事業です。

平成24年度事業報告

【プロジェクトH× 健康教育課】

昔ながらの米作りを体験しよう

見沼田んぼ内の田んぼを利用し、さいたま市内の児童生徒を対象に、昔ながらの田植え・稲刈り体験を実施しました。見沼の自然を楽しむとともに、米作り体験を通して、食物への感謝の気持ちの醸成を図りました。

参加人数 360名

助成金交付額 374,190円

子どもたちが自分の手で田植えをした稲を鎌を使って刈り取る。そんな昔ながらの米作りを、新都心のビル群がすぐそこに見える見沼田んぼで体験することができた。事業の実施には行政から「見沼田んぼ内での教育ファーム」というテーマ設定があり、団体がそれに対して提案をした。

健康教育課の担当者は「食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるため、都市部にも近い見沼田んぼを活用した農業体験活動が有効だと考えました」と話す。事業には大砂土中学校、蓮沼小学校、本太小学校の子どもたちが参加した。団体の中野代表は「とにかく子どもたちのたくさんの笑顔が見られました。収穫祭にも参加させていただき、食物や作っている人たちへの感謝の気持ちが高まったと感じました」と話した。この事業をきっかけに農作業体験学習「ふれあい・夢ファーム」が始まっている。

（市民記者　渡辺浩二）

【こうぬま・水と緑を楽しむ会 × 与野まちづくり事務所】

「河童ぶち公園」（仮称）の市民参加と協働による水辺緑地計画

講義やワークショップを行い、高沼用水路など周辺の資産を活用し、市民参加による管理運営を含めた公園の基本案を検討しました。市民と行政が一緒に話し合い、期待することやできることをより詳しく検討することができました。

参加人数 168名

助成金交付額 588,153円

地元の市民活動団体と市が共に協力し、公園づくりの案を検討した。素掘りのまま残されている水辺の自然環境を守り育てたいと、団体が存続に向けて動いたのである。

公園整備では、行政が市民に計画を提示し、説明会を開催することが一般的である。しかし、マッチングファンドの活用により、市民と行政がパートナーとなり、整備の計画段階からスタートさせることができた。与野まちづくり事務所の担当者は、「市民の声、行政の考え、お互いの意見を交換し、話し合いの場を重ねたことで、市民が何を思っているのかを聞けたことがなによりもよかった」と話す。団体の鈴木代表は、「計画から完成だけではなく、その後の管理運営まで、お互いに信頼関係を築きながら続けていきたい」と話した。今後も公園の詳細設計に向けて話し合いが重ねられる。

（市民記者　森永陽子）

【にこにこハッピーハウス × 子育て企画課】

三世代子育て応援事業

高齢者及び子どもとその親が一緒に過ごせる場を提供し、種々のプログラムを組み合わせることで世代間交流による相互理解を促しました。多世代が関わる子育て環境の整備や子育ての課題を解決するためのネットワーク作りを推進しました。

参加人数　965名

助成金交付額　101,936円

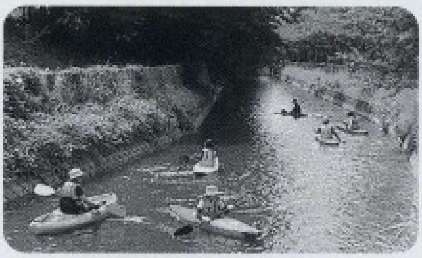
赤ちゃんから高齢者まで誰でも参加できる「三世代ふれあいカフェ」が木崎自治会館で開催された。ママがおばあちゃんとティッシュケースを作成したり、マットで子どもを遊ばせながら、お茶を片手に会話するなど自由な雰囲気が特徴。「友達の家にいるかのようなゆったりとした空気に包まれていました」と子育て企画課の担当者は語ってくれた。

木崎地区には公民館や児童館が少ない為、高齢者や乳幼児を持つ親が孤立してしまうことがあるという。世代を超えた交流を目的に団体が運営し、のべ千人近い利用があった。団体代表の斉木さんは「異なる世代が同じ時間、場所で過ごしながら、悩み事の相談や講座など、お互いの得意分野が生きるようにしました」と話す。団体は誰もが楽しくホッと安心できる場所を目指し「木崎ふれあいカフェ」として継続開催している。（市民記者　高田彰子）

【特定非営利活動法人地域人ネットワーク × みどり推進課】

見沼代用水東縁カヌーツアー

地域貢献活動を模索するシニア世代を対象にカヌーツアーサポータ養成講座を開講しました。また別途募集した親子を対象に「見沼代用水東縁カヌーツアー」を養成されたサポータが行い、三世代の交流と見沼代用水や見沼田んぼの歴史的価値への理解を促しました。



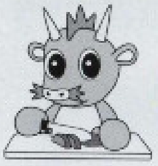
参加人数　22名

助成金交付額　271,672円

市が進める見沼田圃づくりのテーマ「農・自然・歴史とふれあう」こと、また市民参加レクリエーションの新たな試みとした協働事業であった。昭和初期まで船運河として使われていた見沼代用水の景観・史跡を実際の水の流れに乗り、めぐる手段としてカヌーツアーを団体が提案。募集したシニアボランティアをサポータとして養成し、市民参加による見沼代用水東縁親子カヌーツアーを実施した。市は、農業用水路でのカヌーツアー実現のために権利関係機関への働きかけをサポートした。今後どのように継続していくかが課題としている。

ツアーはサポータ、参加者が見沼代用水の斜面林など豊富な自然を川面から楽しむ体験ができ、改めて用水周辺の緑や雑水の入らないきれいな流れを大切なものと再認識したようだ。団体は今後の展開として高齢者や障害者も参加できるツアーの企画、また見沼代用水での利用や活動、保全に関わる他の組織とのよりよい連携を考えていきたいと語った。（市民記者　阿部健二郎）

【ファームイン・さぎ山×健康教育課】



食育は農業体験から

市内の小学校の子どもたちに見沼田んぼにおける農作業体験活動を通して、植物や自然、また食への理解を深めてもらいました。見沼田んぼ地域の特色を感じさせる里芋の栽培や田の草取りなど楽ではない作業も取り入れながら、有意義な農業体験による食育ができました。

参加人数　440名

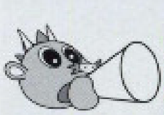
助成金交付額　432,900円

「見沼田んぼ内での教育ファーム」というテーマに、「農業体験を通して食への理解を深め、農業の持つ色々な機能を理解してもらう」活動をこれまでにも行ってきた団体が事業を提案した。「書類の作成などは苦労したが、健康教育課と新たな関係が築けました」と萩原代表は話した。平成25年度は「ふれあい・夢ファーム」を協働で実施している。

「ふれあい・夢ファーム」に参加した児童の保護者は「カエルやイナゴなどの沢山の生き物が生活する姿に、子どもは田んぼの必要性を感じたようです。私も子ども達の農作業を通して、見沼田んぼの治水機能や自然の重要性を理解することが出来ました」と話してくれた。

「もったいない」と落ちた穂を拾い集める子どもたちの姿が印象的であった。　（市民記者　泉田重則）

【特定非営利活動法人埼玉情報センター×市民活動支援室】



市民記者による「さいたま"市民活動"情報」発信プロジェクト

市民活動や地域の情報を市民目線で発信する「市民記者」の養成や、市民活動に係る情報発信力の向上を目的とした講座やセミナーを開催しました。養成された市民記者による紙面作成など、市民活動情報を発信することで市民活動の活性化につなげました。

参加人数　338名

助成金交付額　338,105円

さいたま市の魅力的な地域情報を広く発信するため、情報発信力の向上を目的に講座を開催した。「市民・行政・企業100人で話す！『地域情報発信』ワールドカフェ」では、参加者から情報発信に関する多くの意見を聞いた。団体の担当者である生越さんは「地域情報を効果的に発信するため、ネットワーク作りや市民目線で情報を発信する記者の養成が必要だと考えていました」と話す。

市民記者養成講座では新聞編集者が講師となり、模擬取材や記事の添削、写真を撮るコツなどを学んだ。受講生が実際に取材した地域情報の記事が新聞の特集号として紙面にもなった。市民活動支援室の担当者は「記者の方たちが市民活動を取材し、共感したことを記事にすることで、さらに多くの人たちに発信できたことは大きな成果でした」という。市民記者の養成事業は継続して行われており、今後も市民活動情報の活発な発信が期待される。　（市民記者　白幡洋一）

協働の相談窓口
「協働のテーブル」をご利用ください

市民活動団体と市が協働により都市づくりを進めていくための相談窓口です。
協働に関する提案を受け付けます。
団体と市が、それぞれが考える地域課題を共有し、課題解決の方策などを話し合います。
市民活動支援室と市民活動サポートセンターがコーディネートします。

市民活動団体からの提案　／　行政からの提案

↓

提案の受付
市民活動サポートセンター／市民活動支援室

↓

「協働のテーブル」の設定

- 課題解決の方法について
- 協働の必要性について
- 市民活動団体及び市それぞれが考える地域課題について

〈出席者〉市民活動団体・関係課・市民活動支援室・市民活動サポートセンター

よくある質問

Q 必ず市の担当部署と協働できるのですか？

A 市民活動団体が単独で実施したい事業ではなく、市との協働による事業が対象です。提案の内容が協働になじまない場合には、ご希望に沿えないことがあります。

Q 提案する内容について、何か制約がありますか？

A 市民活動団体の定款または会則等に定める事業に沿う内容であり、さいたま市内における協働による地域課題の解決に関する提案であれば、特に制約はありません。

募集案内などのダウンロードや詳細はさいたま市ホームページの
「協働の相談窓口　協働のテーブル」のページをご覧ください。

団体希望助成事業

団体希望助成事業は、団体希望寄附金が寄せられた基金の登録団体が、団体の活動趣旨に沿って、地域又は社会の課題解決のためにひとつの区の区域を超えて行う、非営利で公益的な活力のあるまちづくりに貢献する事業です。

市民や企業等から団体を希望して寄附をいただき、その寄附金を活用して実施する「団体希望助成事業」の対象となるためには、あらかじめ基金の登録団体となる必要があります。

登録制度の概要は次のとおりです

❶団体登録の申請は随時受け付け、さいたま市市民活動推進委員会の審査を経て登録が決定します。委員会による審査は年7回程度を予定しています。

❷登録を決定した団体については、市のホームページ上で活動を紹介し、寄附を募集します。登録団体は市民や企業に対して自らの活動等を積極的に発信し寄附を募ります。

❸登録団体の支援を希望する寄附があった場合、登録団体がその寄附を活用して行う公益的な事業に対して助成します。助成金の申請受付は9月と3月の年２回実施します。

❹助成金は、さいたま市市民活動推進委員会の審査を経て、交付を決定します。寄附者の意向を尊重いたしますが、必ずしも団体の申請どおりに決定されるとは限りません。また、寄附金の一部は市民活動全般に対する助成事業に活用されます。

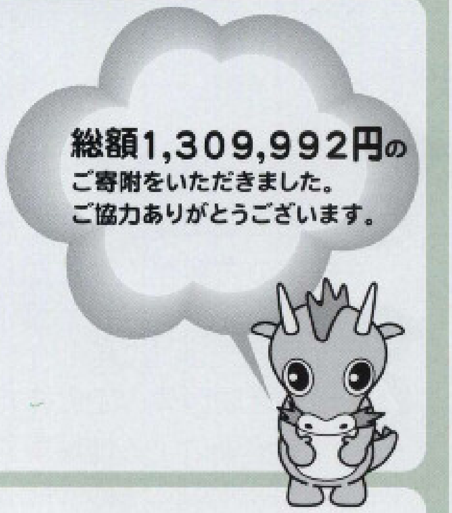
❺登録の有効期間は登録決定の通知の日から３年間です。引き続き登録を希望する場合には、改めて申請手続きを行っていただきます。

申請用紙のダウンロードや登録の要件等詳しくは、さいたま市ホームページの「さいたま市市民活動及び協働の推進基金」のページをご覧ください。

ご寄附いただいた方のご紹介

【一般寄附分】 ※申出書受付順

- 浦和商業開発　株式会社　様
- 株式会社　ムトーセーフ　浦和支店　様
- 株式会社　伊勢丹　浦和店　様
- 浦和総業　株式会社　様
- 埼玉土建一般労働組合さいたま北支部片柳分会　様
- さいたま市リサイクル女性会議浦和　様
- 中山道浦和宿・二七の市実行委員会　様
- 浦和駅東口市民広場もちつき大会実行委員会　様
- サポセンファンクラブ　様
- 大林不動産株式会社プロパティマネジメント　様
- 匿名希望の方々



【団体寄附分】

- 株式会社　ユアーズ・コーポレーション　様（寄附先　ドリームアートさいたま）
- 水辺環境再生さいたま 様（寄付先　ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンド）

平成24年度事業報告

【NPO法人自然観察さいたまフレンド】

芝川低地の水環境調査

神明下橋（市民の森）から境橋（旧16号線）の間の芝川本流及び周辺の水域の7地点で化学的水質検査、湧水路の流量調査、野草の開花調査を実施しました。広く市民に参加を呼び掛け、一緒に浄化対策を考えるきっかけとしました。

参加人数　23名
助成金交付額　26,586円

これまでも実施してきた水環境調査ですが、参加したことがない市民にも調査を行ってもらうことで、水環境の現状を知り、汚染予防や浄化対策を考えるきっかけとなることを目的に団体希望助成事業として行いました。

化学的な水質調査とともに、周辺の野草開花の調査を併せて行うことで、団体の活動の原点である自然保護につながる自然観察を行うことができたと思います。平成 25 年度も団体希望助成事業として「見沼たんぼの自然観察＆自然環境調査と市民へのアッピール」を実施し、見沼たんぼ地域でフィールドワークを行い、活動を広く周知していきます。

【ドリームアートさいたま】

平成24年12月9日実施の「はあとねっと輪っふる」主催のノーマライゼーション啓発イベント（ポスターおよびチラシの製作）

ノーマライゼーション啓発イベントのチラシを製作し、広く周知することで多くの参加者を募りました。ノーマライゼーション活動への理解を促進することやアーティストやボランティア、ノーマライゼーション活動を行う他団体との連携を深めることができました。

参加人数　60名
助成金交付額　27,000円

さいたま市では「誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」、いわゆる「ノーマライゼーション条例」が施行されていますが、それ以前から私たちはアートを通じたノーマライゼーション活動を続けてきました。

今回このような機会がより多くの方々にとって、私たちの活動や障害者及び支援者への理解が深まるきっかけとなり、イベントに参加し、ボランティアとしてお手伝いいただき、アーティストとして活動していただける方々がさらに増えることで、ノーマライゼーション活動が活性化するものと期待しています。今後も活動を継続し、障害者が活躍できる環境づくりをしていきたいと思います。

登録団体紹介 (平成25年12月末現在)

特定非営利活動法人 生涯学習コーディネート協会	地域の学習者に対し、生涯学習に必要な情報提供や学習要求を満たす学習内容を提供する教育活動に関する事業を行い、全ての学習行動に寄与する事を目的としています。
特定非営利活動法人 都市づくりＮＰＯさいたま	まちづくりに関する様々な課題に取り組むために、建築、土木、都市計画、環境、産業経済等の専門的な立場から活動及び支援を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的としています。
北浦和総合型地域スポーツ・ レクリエーションクラブ 「ふれあいプレイランド」	スポーツ・レクリエーションの普及と振興を図り、青少年の健全な心身の育成に寄与するとともに、子どもから高齢者までの異世代の多様な交流を活性化し、あわせて会員の健康増進を図ることにより、人々の健康で楽しい地域の創造に寄与することを目的としています。
ドリームアートさいたま	主にさいたま地域で活動するアーティストや障がいを抱えるアーティストに対し、プロモーション活動や作品を発表する場づくりを支援し、芸術の振興を通じて地域の人々が共生しながら豊かに暮らせる社会の実現に寄与することを目的としています。
特定非営利活動法人 地域伝統文化推進機構	日本古来の伝統文化を次世代に伝えることを目的としています。
こうぬま・水と緑を楽しむ会	高沼用水流域の市民参加のまちづくり・「河童の森」づくりを目的としています。
浦和ユースオーケストラ	オーケストラ活動の活性化と青少年育成を目的としています。
ＮＰＯ法人 自然観察さいたまフレンド	自然保護につながる自然観察を活動の原点として、自然環境保全や環境教育の諸活動をつうじて、みどり豊かなまちづくりの推進に寄与する事を目的としています。
このまちで暮らす会	住み慣れた我が家で暮らし続けるための生活サポートシステムを、生活圏ごとにつくることを目的としています。
浦和日本語ボランティア グループ「くすのき」	在留外国人の日本語学習を支援すること、それを通じて国際交流を深めることを目的としています。
特定非営利活動法人 岩槻まちづくり市民協議会	岩槻区内各分野で活躍している団体、区民の知恵と経験を結集し、さまざまな提案及び推進活動をすることにより、にぎわいと魅力あるまちづくりに寄与することを目的としています。
特定非営利活動法人 環境ネットワーク埼玉	市民、事業者、行政機関と連携して、地球温暖化防止などの環境保全活動を推進することにより、将来にわたり持続可能な循環型社会の構築に寄与することを目的としています。
リレーフォーライフ 埼玉実行委員会	リレーフォーライフは、サバイバー（がん患者）、ケアギバー（家族、遺族、支援者）を称え、地域社会全体でがんと闘うための絆を育むための啓発サポートキャンペーンです。明日を生きる勇気と希望を与え、がん啓発による早期発見、早期治療、研究のための寄付活動等を呼び掛けています。
ＩＴリーダの集い	地域社会における市民向けＩＴ知識の普及支援活動を行い、情報格差の問題を解消し、地域社会の活性化に資することを目的としています。

お知らせ

平成２６年度さいたまマッチングファンド一般助成事業は4月からスタートできます

これまでは3月から4月に募集をしていましたが、平成２６年度は1月に募集を開始します。

審査を平成２６年3月末までに行い、採択された事業は早ければ4月から開始することができます。

なお、市議会での平成２６年度予算の議決が条件になります。

「さいたま市民記者」が事業の紹介をしています

一般助成事業の６事業は「さいたま市民記者」が紹介しています。

「さいたま市民記者」は、市民活動情報を発信するため、養成講座を受講した市民が登録をしています。事業を実施した市民活動団体や市の所管課に取材し、各事業の記事を作成しました。

「さいたま市民記者」はマッチングファンド事業に限らず、市内の市民活動情報を発信しています。さいたま市ホームページの「さいたま市民記者が市民活動情報を発信します」のページをご覧ください。

さいたま市市民活動サポートセンターをご利用ください

地域や社会のさまざまな課題の解決をめざして、自主的に非営利で公益的な活動をする市民活動団体やこれから活動をはじめようと考えている市民を支援するための施設です。

団体活動の紹介やさまざまなセミナーの実施、利用団体とともに年３回のイベントの開催などをしています。

また、市民活動団体と市の協働による地域課題の解決に関する相談も受け付けます。詳しくは7ページの「協働のテーブル」をご覧ください。

マッチングファンドへの寄附募集中!!

さいたまマッチングファンドは、市民のみなさんが寄附を通して市民活動に参加したり、支援したりできる仕組みとして設置しています。住みよいまちづくりのために、寄附を通しての参加、応援をよろしくお願いいたします。

寄附の手続きは？

市民活動支援室までご連絡ください。寄附申出書をお渡しいたします。さいたま市ホームページからダウンロードもできます。
詳しくは「さいたま市市民活動及び協働の推進基金」のページをご覧ください。

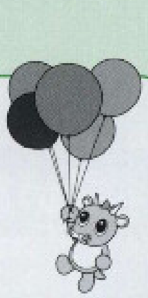
税制上の優遇措置があります！

マッチングファンドへご寄附いただくと、税制上の優遇措置があります。

- 寄附者が個人の場合→住民税の寄附金税額控除および所得税の寄付金控除が受けられます。
- 寄附者が法人の場合→法人税額の算定上、全額損金算入できます。

※詳しくは、最寄の税務署または、住所地の市区町村にお問い合わせください。

お礼を差し上げます☆



- １万円以上５万円未満の寄附をされた場合→さいたま市ＰＲキャラクター「ヌゥ」の「ヌゥぐるみストラップ」
- 5 万円以上の寄附をされた場合→「ヌゥぐるみ」を差し上げます。

お問い合わせ先

さいたま市市民・スポーツ文化局市民生活部
コミュニティ推進課市民活動支援室

〒330-0055　さいたま市浦和区東高砂町１１－１
TEL　048-813-6403　　FAX　048-887-0164

このパンフレットは 4,000 部作成し、1部当たりの印刷経費は、29 円です。